

# 低カリウム血症

英語名 : Hypokalaemia

## A . 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

低カリウム血症は、血液中のカリウムが低下する病気で、脱力や呼吸困難感、不整脈などを認めます。カリウムの摂取不足や下痢やおう吐による胃腸からのカリウムの喪失、腎臓からの尿にカリウムが多く含まれ腎臓から失われるケースがあります。利尿薬、甘草やその主成分であるグリチルリチンを含む漢方薬、肝臓病の治療薬、アミノグリコシド系抗菌薬でみられ、次のような症状がみられ、その症状が持続する場合には、医師・薬剤師に連絡して、放置せず受診してください。

**「手足のだるさ」、「こわばり」、「力がぬける感じ」「筋肉痛」「呼吸困難感」**

また、連絡、受診の際には、服用した医薬品の種類、服用からどのくらい経っているかなどを医師・薬剤師に伝えてください。

## 1. 低カリウム血症とは？

カリウムは生野菜や果物に多く含まれる電解質で、血液中のカリウムが低下した状態を低カリウム血症といいます。おう吐や下痢によって消化管から喪失してしまう場合と、多くのインスリンを注射することで細胞の中にカリウムが移動してしまう場合と、腎臓から尿にカリウムが多量に排出される場合があります。低カリウム血症の主な症状としては、「手足の力が抜けたり弱くなったりする」があり、これに次いで「手足のだるさ」、「こわばり」、「筋肉痛」、「麻痺」、「不整脈」などがあります。症状が進むと、「体を動かすと息苦しくなる」、「歩いたり走ったりできなくなる」、「赤褐色の尿がでる」、「尿がたくさん出たり、出にくくなったりする」、「糖尿病が悪くなる」こともあります。

## 2. 早期発見と早期対応のポイント

医薬品が原因の場合、原因と考えられる医薬品の服用後数週間から発症することが多いのですが、数年以上経ってから起こることもあります。また、複数の医薬品の飲み合わせで起こる場合もあります。医薬品の服用後に「手足のだるさ」「つっぱり感」「こわばり」がみられ、これらに加えて「力が抜ける感じ」、「筋肉痛」などが現れた場合には、すみやかに医師・薬剤師に連絡してください。

また連絡の際には、服用した医薬品の種類、服用からどのくらい経っているかなどを医師・薬剤師に連絡してください。



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医療用医薬品 情報検索」から確認することができます。

<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

※ 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病等の健康被害について、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金などの救済給付が行われる医薬品副作用被害救済制度があります。

(お問い合わせ先)

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

<http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai.html>

電話 : 0120-149-931 (フリーダイヤル) [月～金] 9時～17時 (祝日・年末年始を除く)